

ポリオ後遺症の患者さんの紹介状

殿

産業医科大学名誉教授
介護老人保健施設 リカバリーセンターひびき
施設長 蜂須賀 研二

氏名： _____， 年齢： _____

この患者さんは、幼少時にポリオ（急性灰白髄炎、脊髄性小児麻痺）に罹患しました。ポリオに罹患した方々の状況について情報を提供させていただきます。

一般にポリオ罹患者は長い年月が経過すると、疲労感が強くなる、筋力が低下する、筋肉が萎縮する、階段を上れなくなる、立ち上がりが困難になる、油断すると膝折れして転倒する、関節の変形が進み痛を生じる、麻痺肢の冷えが強くなるなど、様々な症状が出現します。これらの症状が出現した場合、post-polio syndrome（ポリオ後症候群、ポスト・ポリオ症候群）、progressive post-poliomyelitis（進行性ポリオ後筋萎縮症）、ポリオ後遅発性進行性筋萎縮症などと呼ばれます。これは新しい病態ではなく、古くは1875年 Raymond の報告があり、Hodges (1986)や Halstead (1987, 1995)らは post-polio syndrome と報告しています。この患者さんも、このポリオ後症候群に該当すると思われます。

ポリオ後症候群の診断は、Halstead (1987)の診断基準がしばしば用いられますが、2000年に開催された March of Dimes 国際会議の診断基準が優れているので (Gonzalez 2010)、以下に示します。

- 1) 運動ニューロン消失を伴う麻痺性ポリオの既往があり、急性に発症する麻痺性疾患の病歴。神経学的診察で残存する筋力低下や筋萎縮の徴候、筋電図検査で脱神経所見があることにより確認できる。
- 2) 急性ポリオ発症後、部分的にあるいは完全に機能回復した時期があり、その後、神経学的に機能が安定した状態が一定期間(通常15年以上)続く。
- 3) 進行性で持続する新たな筋力低下や易疲労性(持久力減少)が徐々に、あるいは突然出現する。全身性疲労、筋萎縮、筋や関節痛を伴うこともある。(不活動の時期あるいは外傷や手術の後に突然発症することがある。) まれに PPS に関係する症状として、新たな呼吸や嚥下の問題を生じる。
- 4) これらの症状は1年以上持続する。
- 5) 同様の症状の原因となる他の神経疾患、内科疾患、整形外科疾患を除外する。

ポリオ罹患者は、ポリオ後症候群に類似した疾患や合併症を持っていることがあります。例えば、変形性膝関節症、変形性脊椎症、脊柱管狭窄症、絞扼性末梢神経障害、肢体型筋ジストロフィー、多発筋炎、封入対筋炎、脊髄性筋萎縮症、筋萎縮性側索硬化症などがあり、鑑別に注意を要します。

ポリオ後症候群の治療は未確立ですが、それにより引き起こされる障害の治療は可能です。

まず、四肢の主な関節の可動域や筋肉の筋力を測定し、日常生活活動（移乗、平地歩行、階段昇降・その他）や応用的活動（掃除、買い物、旅行・その他）に障害があるかを診察して、治療として何をすべきかを検討します。

身体活動の減少が下肢筋力低下の誘因であれば、生活の活性化を指導し、筋力強化訓練や散歩・階段昇降を勧めます。身体活動が維持されており、使いすぎが誘因であれば、無理をせずに途中で休憩を入れて自分に適したペース配分を指導し、装具や車椅子の活用を勧めます。下垂足に対しては靴べら型短下肢装具、膝折れを主体とする歩行障害にはカーボン製長下肢装具を処方します。ポリオ患者の下肢装具に経験のある医師へ紹介するのも良いでしょう。

最後に、ポリオ後症候群患者の生命予後は悪くはありませんので、ゆっくりお話を聞いてあげ、介護保険を利用した介護支援を含めて障害に対する対応と一緒に考えましょう。

参考文献

- 1) Halstead LS: Post-polio syndrome: definition of an elusive concept. Post-polio syndrome. Butterworth-Heinemann, Boston, pp23-38, 1995
- 2) Farbu E, et al: FENS guideline on diagnosis and management of post-polio syndrome. Eur J Neurol 13: 795-801 2006
- 3) Gonzalez H, Olsson T, Borg K. Management of postpolio syndrome. Lancet Nerurol 2010;9:634-642
- 4) 蜂須賀研二, 佐伯寛, 松嶋康之, 蜂須賀明子: ポリオ後症候群 2014; 0047-1852:521-524

【添え書き 全国ポリオ会連絡会より】

ポリオ後遺症を持つものが集まり、2000年に全国ポリオ会連絡会を発足し、今日まで活動が続けております。「ポスト・ポリオ症候群」は、まだあまり広く知られていない病気です。そのため、病院を受診する際、この病気についての説明をする必要が生じる場合もあるのですが、専門家ではない私たち自身ではうまく説明できないので、ポスト・ポリオ症候群の研究の第一人者でいらっしゃる蜂須賀研二先生に依頼して、このようなものを作っていただきました。

なにとぞよろしくお願いいたします。

（全国ポリオ会連絡会運営委員一同）

全国ポリオ会連絡会
<http://www.zenkokupolio.com/>